坂本治也「青年会議所への参加は善き市民の育成につながるのか？
―混合研究法による実証的検討」『年報政治学』

Online Appendix

2024 年 8 月 30 日

坂本治也

A. 定量的分析における概念の操作化

・政治関心＝「わたしは普段から政治のニュースに積極的に接している」、および「選挙のあるなしに関係なく、いつも政治のできごとに注意を払っている」という意見に対する回答者自身の認識についての回答。回答は「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」「答えたくない」の選択肢から１つ選ぶ形式であるが、本稿では「そう思う」または「ややそう思う」を回答として選んだ場合を「政治関心あり」とみなした。

・内的な政治的有効性感覚＝「政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない」および「自分のようなふつうの市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない」という意見に対する回答者自身の認識についての回答。回答は「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」「答えたくない」の選択肢から１つ選ぶ形式であるが、本稿では「そう思う」または「ややそう思う」を回答として選んだ場合を「内的な政治的有効性感覚が欠如している」とみなした。

・外的な政治的有効性感覚＝「国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる」および「政治家は私たちのことを考えていない」という意見に対する回答者自身の認識についての回答。回答は「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」「答えたくない」の選択肢から１つ選ぶ形式であるが、本稿では「そう思う」または「ややそう思う」を回答として選んだ場合を「外的な政治的有効性感覚が欠如している」とみなした。

・政治・社会行動の経験＝「選挙で投票する」「選挙運動を手伝う」「国や地方の議員に手紙を書いたり、電話をする」「役所に相談する」「請願書に署名す

る」「デモや集会に参加する」「ボランティアをする」「１万円以上の寄付をする」といった行動の経験に関する質問の回答。それぞれの行動について回答は「3 度以上ある」「1～2 度ある」「1 度もない」「わからない」「答えたくない」の選択肢から１つ選ぶ形式であるが、本稿では「3 度以上ある」または「1～2 度ある」を回答として選んだ場合を当該行動の「経験あり」とみなした。

・他者に対する一般的信頼＝「ほとんどの人は基本的に正直である」「私は人を信頼するほうだ」「ほとんどの人は基本的に善良で親切だ」「ほとんどの人は他人を信頼している」「ほとんどの人は信用できる」という 5 つの意見に対する回答者自身の認識についての回答。それぞれの意見について回答は「まったくそう思わない」「そう思わない」「あまりそう思わない」「どちらともいえない」「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」の選択肢から１つ選ぶ形式である。本稿では「まったくそう思わない＝1」「そう思わない＝2」「あまりそう思わない＝3」「どちらともいえない＝4」「ややそう思う＝5」「そう思う＝＝6」「非常にそう思う＝7」と回答に値を割り振り、5 つの回答の値の合計値を 5 で除した数値を「一般的信頼スコア」として、そのスコアを各回答者の他者に対する一般的信頼の水準を表わす指標とみなした。

B．インタビュー調査での聞き取り内容のまとめ

補遺表 1　JC 入会の主たる経緯と理由

調査対象者	入会の経緯	入会理由
A	知り合いの社長に誘われた	人脈が広がる。若い経営者の意見を聞ける
B	仕事でお世話になっている人から誘われた	周りに入っている人も多く、父親も入っていたので
C	自分から入会した	お寺以外の世界を知る機会になる
D	お世話になっている社長さんから誘われた	人脈が得られる
E	JC の OB である父親に勧められた	子どもに関わる活動がしたかった。人脈を拡げたかった

F	商工会議所青年部に属しており、そこで出会った JC の OB に影響された	地域のお祭行事をやりたかった
G	知り合いの税理士が JC の OB で勧められた	地元での人脈形成につながる
H	JC の現役会員である知り合いに誘われた	地域活動に関心があった
I	ローターアクトに入会しており、そこでの先輩が JC に入っていて勧められた	お付き合いで
J	取引先の人が JC で飲み会に誘われ、参加して面白そうと思った	面白そう
K	職場の総務課から研修費で入会金・会費を出すので、JC に行くように依頼があった	色々な人を知ることができる

出所：筆者作成。

補遺表 2　JC 活動から得られたもの、政治・地域社会に関する意識変容、JC の存在意義

調査対象者	得られたもの、メリット	政治や地域社会に関する意識変容	JC の存在意義
A	経済活動をしている人の生の声を聞けた。人脈が得られた	政治についてはとくになし。地域社会でボランティアをしている人がたくさんいることを知った	経営者がスキルを磨く場になっている。JC を経験して、経済界で活躍する人材が輩出される
B	仲の良い友達ができた。仕事にも役立つ人脈が得られた。色々な人の考えを学ばせてもらった	政治家と接触する機会が増えた。JC 卒業生の選挙運動を手伝った	地域の発展につながる。地域のことを考える人材を養成する場になっている

C	仲間が得られる。人脈が得られる。自分に足りないものが浮き彫りになる	地域社会に意識が向くようになった。地域を変えられると思うようになった	リーダーを育成する場。みんなで協働することを学ぶ場
D	色々な人との人間関係ができた	政治についてはとくになし。地域の人々がどんな問題意識をもっているか、地域団体がどんな経緯でできたかわかった	若い経営者が社会貢献をやりたいという時に受け皿になる団体
E	議員、士業、役所の人などに人脈を拡げられる。地元に仲間ができる	街を良くするということ考えるようになった。投票に行くようになった。政策課題について話し合うようになった	地域のまつりや文化を作ることに貢献している。市役所から相談を受けることも多い
F	政治・行政だけでなく市民によって地域が回っていることを知れた。人脈を得られた	市長や議員と関わる機会をもったことで政治家の実態を知れた。候補者をよく見て投票するようになった	JC で会議の仕方や人間関係のあり方を学んだ OBOG が地域社会で活躍している
G	まったく違う分野の人との人脈が得られた。違う考え方をする人たちとの間での合意形成の方法を学んだ	市民団体が身近に感じられるようになった。PTA や自治会への参加意欲が向上した。市長や議員の話を聞く機会が増えて、よく考えて投票するようになった	新しいことに常に取り組んでいる団体。地域を担う若い世代の育成につながる
H	仕事の肩書きとは別の人間関係ができた。JC のネットワークで議員や地域団体の要職の方とも話が通じるようになった。	政治・行政についての意識変化はとくにない。地域のために汗をかこうとしている人がいて、そういう人の努力で地域社会が回っていることがわかった	地域社会に興味をもっていなかった人が、地域社会に何かしようとする際の第一歩になる団体。とくに経営者の人に意義がある。

I	人脈が得られた。全国に仲間ができた。市長や国会議員と話ができる	まちづくりをやろうと思えば、政治が絡んでくることを実感できた。自治会や地域活動などを軽視しないようになった	社会の縮図のような団体。目標に向かって全力で取り組み、議論の仕方を学ぶ団体。学び舎になっている
J	（新入会員のため尋ねていない）	（新入会員のため尋ねていない）	若者たちから街に対しての架け橋となる団体。目的がまちづくりなのか、個々のメンバーの修行なのか、まだぼんやりしている
K	人脈が得られた。とくに国際的な友達ができた。新しいことに挑戦できた。役職を経験して、自分でも政治をやれるのかな、と思うようになった	出馬するきっかけとなった。新しいイベントを立ち上げることで、色々なことができる気がしてくる。経済人が町を作っていると実感した	地域社会に認められた団体で、若者が自由にやれる団体。色々な人と出会って、成長することができる

出所：筆者作成。